

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 5 巻第 31 号

第 31 週(8月 1日～ 8月 7日)

発行年月日:平成17年(2005年) 8月 12日

発行:滋賀県衛生科学センター内  
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

### 1)全数報告の感染症(1類～5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (31週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (31週)	全国 (31週)	滋賀	全国 <sup>(*)1</sup>
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	<sup>(*)2</sup> 6	333	9	576
	腸チフス	0	0	29	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2	8	1,671	21	3,640
4類感染症	E型肝炎	0	0	<sup>(*)3</sup> 31	1	34
	A型肝炎	0	1	<sup>(*)3</sup> 125	0	136
	オウム病	0	1	25	1	39
	デング熱	0	1	19	2	45
	マラリア	0	0	43	2	73
5類感染症	アメーバ赤痢	0	2	404	8	580
	ウイルス性肝炎	0	1	176	5	299
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	82	0	167
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	35	1	53
	後天性免疫不全症候群	0	3	681	6	1,119
	ジアルジア症	0	0	41	2	85
	梅毒	0	0	305	4	516
	破傷風	0	0	56	2	100
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	2	43	0	49
	急性脳炎	0	1	<sup>(*)3</sup> 124	1	164

\*1:平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。  
\*2:検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分2件を含みます。  
\*3:平成17年第29週現在の報告数です(iDWR掲載の報告数を参考にしています)。

### 2)定点把握の対象となる5類感染症

#### (1)疾病別・週別発生状況(第26～31週、6/27～8/7)

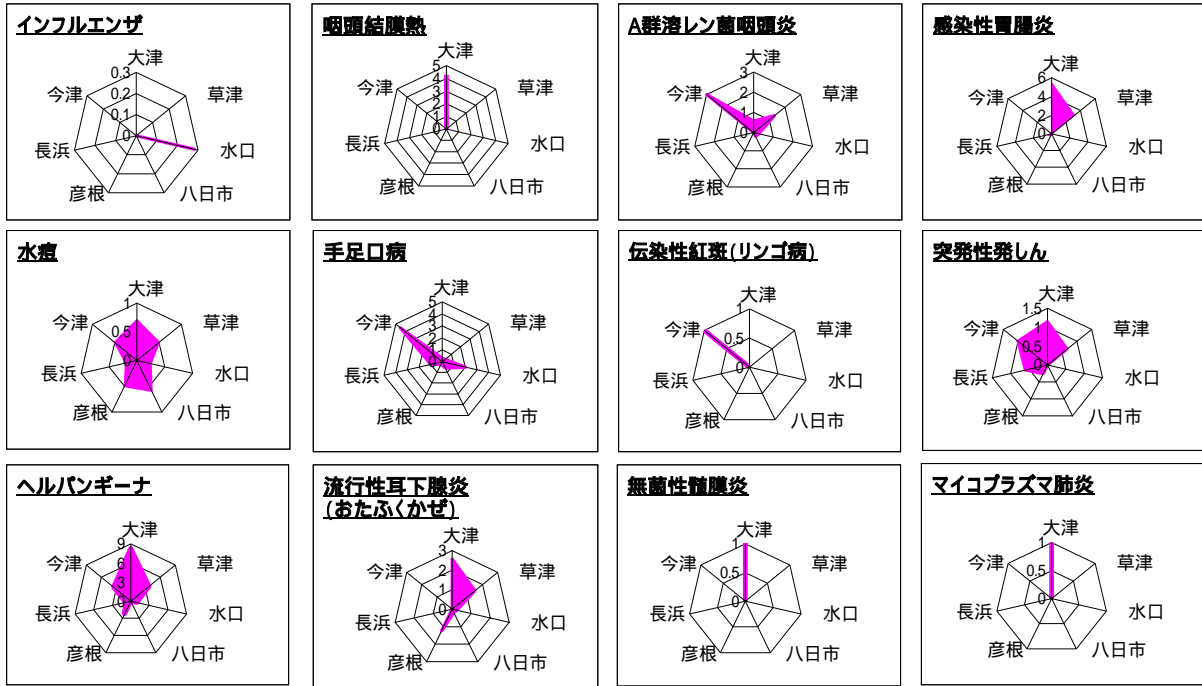
疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	26週		27週		28週		29週		30週		31週	
	(6/27～)	(7/4～)	(7/11～)	(7/18～)	(7/25～)	(8/1～)	27	28	29	30	31	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0.04						
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	0.70	0.91	0.88	0.82	1.00	0.91						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.27	0.61	0.55	0.30	0.03	0.61						
感染性胃腸炎	1.88	2.15	2.03	1.85	1.85	1.82						
水痘	1.55	1.06	1.00	0.94	0.55	0.48						
手足口病	0.85	1.39	1.27	1.15	0.82	0.91						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.12	0.15	0.06	0.09	0.21	0.06						
突発性発しん	0.39	0.52	0.94	0.48	0.70	0.55						
百日咳	0	0	0	0.03	0	0						
風しん(三日はしか)	0	0	0.03	0	0	0						
ヘルパンギーナ	3.03	5.55	5.00	4.39	4.12	3.15						
麻しん(成人麻しんを除く)	0.12	0	0.03	0	0	0						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.30	1.21	1.45	0.70	1.42	1.03						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.29	1.29	0.57	0.71	1.00	0.14						
細菌性髄膜炎	0.14	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0.14	0	0	0	0	0.43						
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0.14	0	0.14						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第31週、8/1～8/7)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津
インフルエンザ	0.04	0	0	0.29	0	0	0	0
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0.91	4.29	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.61	0.57	1.33	0.25	0.20	0	0	3.00
感染性胃腸炎	1.82	5.43	3.17	0	0	0.25	0.40	0
水痘	0.48	0.71	0.50	0.25	0.60	0.50	0.20	0.50
手足口病	0.91	0.29	0.33	2.00	0.60	0.25	1.00	4.50
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.06	0	0	0	0	0	0	1.00
突発性発しん	0.55	1.14	0.67	0	0	0.25	0.60	1.00
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	3.15	8.29	3.67	1.00	0	2.25	0.80	3.50
麻疹(成人麻疹を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.03	2.57	1.50	0.25	0.20	1.25	0	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0.14	0	0	0	0	1.00	0	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0.43	3.00	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	0.14	1.00	0	0	0	0	0	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)

戻る



今週の発生状況:

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。咽頭結膜熱は先週と同様に大津からの報告が非常に多くなっています。A群溶レン菌咽頭炎については草津および今津で多くなっており、無菌性髄膜炎は大津で多くなっています。また、マイコプラズマ肺炎は大津から、伝染性紅斑は今津から報告されています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といえます。

\* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

\* 疾患により定点数は異なります。

### 3) 今週のトピックス

#### 水口保健所管内でインフルエンザ発生 ヘルパンギーナは減少傾向持続 腸管出血性大腸菌の発生に引き続き注意

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(7月25日～7月31日)の報告数より減少しています。今週、増加した疾患はA群溶レン菌咽頭炎、手足口病等です(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

**インフルエンザ**については、第24週(6/13～6/19)まで発生の報告がありましたが、第25週(6/20～6/26)以降は報告されていません。今週の定点当たり患者数は0.04となっており、水口保健所管内においては0.29となっています。

また、全国の発生状況は沖縄県で流行しており定点当たり患者数は4.67となっています。鹿児島県においても定点当たり患者数は0.32と多くなっており、その他の都道府県の定点当たり患者数は、滋賀県が0.04、三重県、福岡県および茨木県が0.03、石川県および宮崎県が0.02、岐阜県が0.01となっています。

**手足口病**については、先週の定点当たり患者数0.82よりやや増加し0.91となっています。水口および今津保健所管内で多くなり定点当たり患者数はそれぞれ2.00、4.50です。

**ヘルパンギーナ**については、先週の定点当たり患者数4.12よりさらに減少し3.15となっていますが彦根保健所管内では増加しています。また、大津、草津および今津保健所管内においては先週に引き続き多い状態で推移しています。

**流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)**については、先週の定点当たり患者数1.42より減少し1.03となっていますが、草津保健所管内においてはやや増加し定点当たり患者数は1.50となっています。

#### 腸管出血性大腸菌感染症(O157等)の予防について

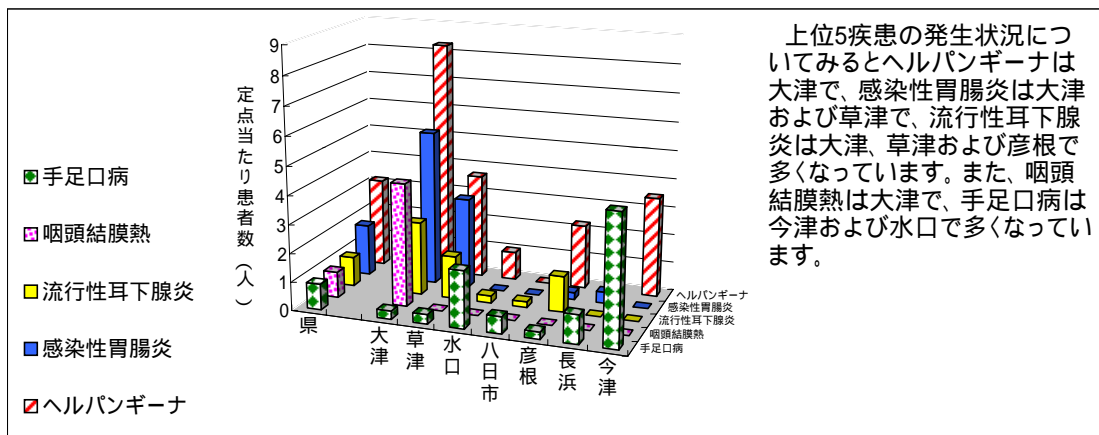
滋賀県における腸管出血性大腸菌感染症の発生は、第28週(7/11～7/17)から連続して発生しています。今後も発生予防に対する一層の注意が必要です。

##### <発生予防に対する注意>

- 1. 十分な手洗いをする** 排便後、食事の前、下痢をしている子供や高齢者の排泄物の世話をした後は、せっけんを使い流水で十分に手を洗う。
- 2. 調理時の注意**
  - 1) 食材などは、流水で十分に洗う。
  - 2) 加熱調理時には、食品の中心温度が75℃、1分以上となるよう十分に加熱する。
  - 3) 調理した食品は、なるべく早く食べる。
  - 4) まな板、包丁などの調理器具は、漂白剤や熱湯で消毒し清潔にしておく。
- 3. 家族内の2次感染を防ぐ** 家族内に下痢などの症状を示す人がいる時は、
  - 1) 便を処理した後の手洗いを十分にする。
  - 2) 入浴時の混浴を避ける。
  - 3) トイレや入浴時のタオルの共用を避ける。

#### 定点把握の対象となる5類感染症における上位5疾患の保健所管内別発生状況

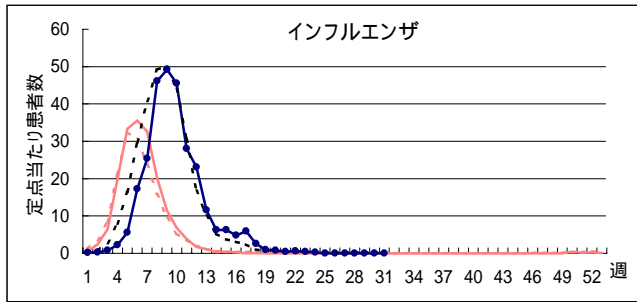
(平成 17年第31週、H17.8.1～H17.8.7)



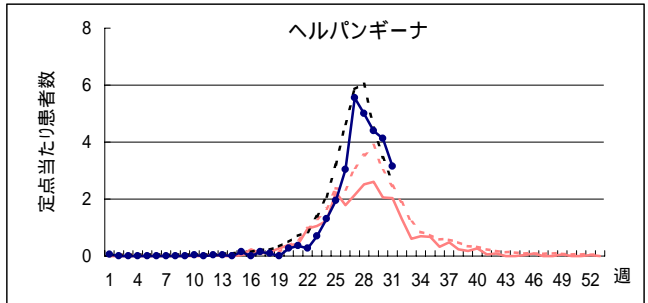
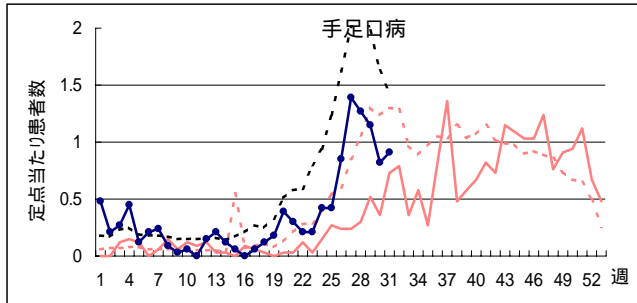
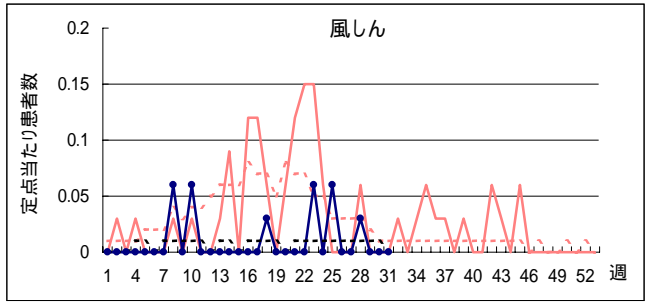
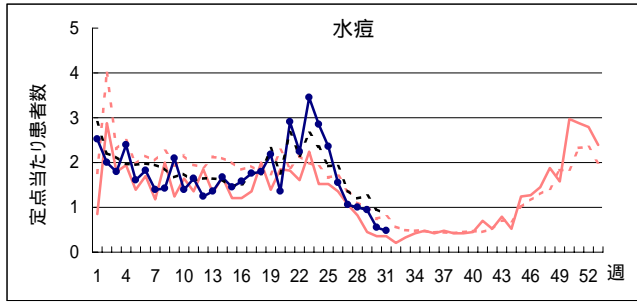
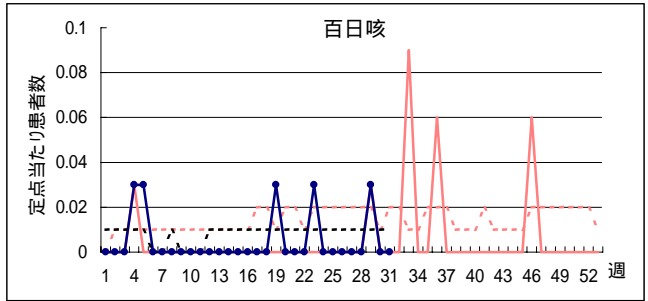
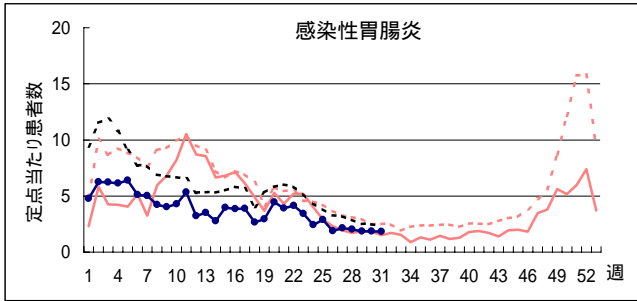
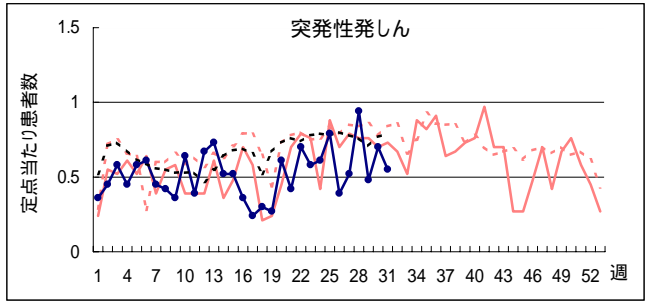
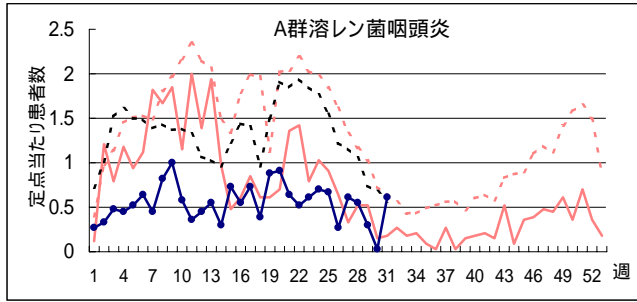
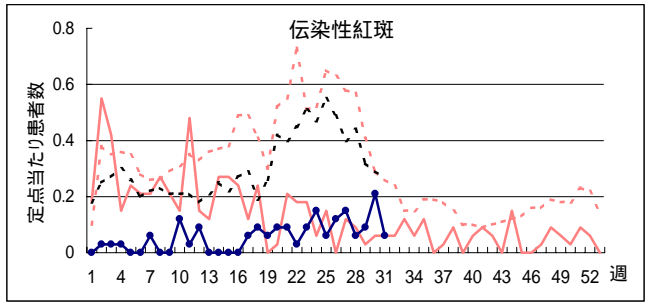
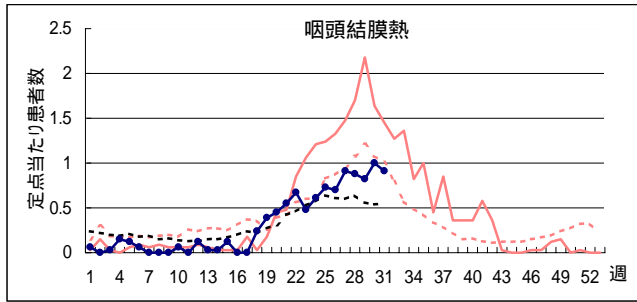
上位5疾患の発生状況についてみるとヘルパンギーナは大津で、感染性胃腸炎は大津および草津で、流行性耳下腺炎は大津、草津および彦根で多くなっています。また、咽頭結膜熱は大津で、手足口病は今津および水口で多くなっています。

全国集計などの詳細な集計結果は、[国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ](http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html) (http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html)において公表されています。

# 疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第31週、H17.1.3～H17.8.7)



H16 { 滋賀 (solid red line)  
       全国 (dotted red line)  
 H17 { 滋賀 (solid blue line with dots)  
       全国 (dotted black line)



# 疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第31週、H17.1.3～H17.8.7)

H16 〔 滋賀 ———— 全国 ..... 〕  
 H17 〔 滋賀 ●——● 全国 ..... 〕

